

EARTH ECO
MAIL MAGAZINE

アース・エコ メールマガジン

特定非営利活動法人
アース・エコ
メールマガジン No.10-7
2019年7月7日(小暑)

アース・エコ会員の皆様と、日頃からアース・エコの活動にご理解、ご支援をいただいている会員外の皆様にアース・エコの活動をお知らせするため、月2回、メールマガジンをお届けしています。

梅雨前線の停滞で大雨となった九州では被害が出ました。200名以上が犠牲となった1年前の7月豪雨の教訓は生かされたのでしょうか。大雨で避難勧告や避難指示が出たらどうしたら良いか、自宅周辺の洪水被害想定や土砂災害危険地域を防災マップで確認しておきましょう。



さがみはら環境まつり

6月30日(日)、JR横浜線/相模線の橋本駅近くの商業施設、ミウイ橋本の5階インナーガーデンを中心会場に、第15回さがみはら環境まつりが開催されました。アース・エコはさがみはら地球温暖化対策協議会、太陽光発電所ネットワークPVさがみはら、相模原市環境政策課とともに地球温暖化対策コーナーに出展しました。

今回の会場は例年より狭く、出展スペースにも制約がありましたが、アース・エコは手回し発電 vs 太陽光発電 de 電車の競走を中心に出展しました。来場者数は例年より多かった印象で、狭いスペースに多くの来場者が集まり、祭りの雰囲気盛り上がった印象がありました。

午前10時30分から午後4時までに350名程の来場者がアース・エコのブースを訪れ、子どもは手回し発電機を回して楽しみ、保護者などの市民はスタッフの省エネの説明に耳を傾けてくれました。 [桑原]



2019年研修旅行 ～世界遺産 日光の社寺と周辺散策～



今年の研修旅行は7月1日から2日にかけて1泊2日で日光周辺を訪れました。梅雨入り直後で天気が心配でしたが、それほどの雨に遭うこともなく、むしろ熱中症の心配なく歩き回れたのは幸いでした。

参加したメンバーの感想を掲載します。ここ数年は被災地視察がテーマだった研修旅行ですが、今年は「なぜ日光？」の疑問の声も。感想をご覧いただければその疑問にもお答えできると思います。 [桑原]

(神奈川県環境学習リーダー会エネルギー部会との共同開催です。)

全員が交代で観光ガイドを

昨年の研修旅行(九州)に引き続き今回も幹事を務めることになった。1日目は世界遺産・日光の社寺(輪王寺、東照宮、二荒山神社)の見学を行った。2社1寺で計18ヶ所ある見どころについて、プロの観光ガイドに頼らず参加者全員にひとり2、3ヶ所ずつ分担し、事前学習をした上で見学当日は交代で説明して貰うことにした。その結果、説明者によって個性や特色が出るので、最後まで飽きることなく聞くことができたのは大変良かったと思う。

自分が担当して調査した中で、最も意外に思ったのは、二荒山神社の



大国殿である。ここに安置されているのは大黒天(大黒様)であるが、大黒様と言えはびす顔でいつもにこにこという印象しかなかった。しかし、大黒天はもともとインド・ヒンズー教の「マハーカーラ」という神で「破壊や戦闘の神」であり、激しい憤怒の形相をしているという。日本では「マハー」が「大いなる」を、「カーラ」が「暗黒」を意味することから「大黒天」と名付けられ、鎌倉時代までは「仏教の守護神」と

して厳しい形相で描かれていた。室町時代に「豊作」のご利益を持った七福神の1柱として崇められるようになり、穏やかな表情で描かれるようになったとのこと。

現在の大黒様は大黒頭巾をかぶり、大きな福袋を背負い、打出の小槌を持って米俵に乗っている姿でお馴染みだが、前述の厳しい形相とギャップが大きく少々驚かされた。 [鈴木]

戦国時代ミステリー



眠り猫



渡邊佐平商店

私の場合、修学旅行を含めると4回目の日光東照宮の旅。

旅の一日目は日光東照宮。宿題は東照宮「眠り猫」と「鳴き龍」。「眠り猫」は雀すら天敵の猫の傍で羽を休めている平和の象徴であり、一方では寝たふり家康の得意技の象徴とも言われている。「鳴き龍」の部屋天井には日本画家の龍(二代目)が睨んでいる。鳴き龍の謂れとして、鳩除けのために大きな音を鳴らすためという説も面白い。

日光といえば「敵は本能寺」に象徴される明智光秀と徳川家康との関係がミステリー。名所・明智平もある。家康の黒幕として傍で日光をデザインした南光坊天海も謎が深い。天海は実は殺されなかった明智光秀だった説も好奇心を誘う。三代将軍家光の乳母であった大奥春日局(かすがのつぼね、お福)は明智重臣 斎藤利三の娘であるが、光秀の血縁であり織田信長の妻(お濃)の血縁でもあるらしい。

家康の天敵であった豊臣秀吉は何と「3猿」として神厩に彫刻されている。恐るべし戦国時代ミステリーは酔いを深めた。

旅の二日目は霧降高原を散策し、2時間近く杉並木を歩き酒蔵・渡邊佐平商店で銘酒日光誉の試飲を愉しんだ。疲れとほろ酔いのまま、日光の一泊二日旅は謎を解決できないまま、帰途についた。 [吉田]

「見ざる・言わざる・聞かざる」の教え

今回の研修は宿題付の楽しい旅行でした。日光東照宮の建物には動物の木彫像が多く、これらの動物のほとんどが平和を象徴しています。私の受け持ちはその内の神厩舎(しんきゅうしゃ)の三猿で、「見ざる・言わざる・聞かざる」で有名な三匹の猿の彫刻です。神馬をつなぐ厩である神厩舎に彫られています。昔から猿が馬を守るといわれていることから作られたそうです。また有名な三猿以外にも、神厩舎には全部で8枚の猿の彫刻があり、これらは人間の一生を風刺しているのだそうです。猿たちが表現する人間の物語をイメージし、ひいては人間の平和な一生の過ごし方を説いたものと言われています。

「見ざる、言わざる、聞かざる」はこの神厩舎に彫られた1枚に過ぎません。「見ざる、言わざる、聞かざる」は「幼少期には悪事を見ない、言わない、聞かない方がいい」という教えであり、転じて「自分に不都合なことは見ない、言わない、聞かない方がいい」という教えにも繋がっています。

神厩舎では今でも実際に神馬が飼われており、その姿を見ることもできますが、今回は見る事が出来ませんでした。神馬とは神様の乗り物、神の使いを意味します。日光東照宮の神馬は雄の白馬に限られ、初



神厩舎



三猿

代の神馬は徳川家康が関が原の戦いで乗った馬なのだそうです。神厩舎に立ち寄ったら三猿だけでなく、ぜひこの神馬にも注目してみてください。

もう一つの宿題は三神庫（さんじんこ）の想像の象です。上神庫・中神庫・下神庫を総称して三神庫と言いますが、この中には春秋渡御祭「百物揃千人武者行列」で使用される馬具や装束類が収められています。また、

三神庫のうちの上神庫側面上方にある彫刻が「想像の象」です。狩野探幽が想像だけで下絵を書いたことからこの呼び名が付けられました。よく見ると耳の形や尻尾の形が違うのが分かります。実物を見たことがなくこれだけのものを書き上げた江戸時代の絵師の想像力はお見事です。

[壁谷]

東照宮は平和への祈り



伝説上の獣



オーナーの名前のプレートがついた杉の木

東照宮と言うと、徳川幕府の権威と権力を誇示するために造られた装飾過剰でごちゃごちゃした建築群といった印象で、大和の古寺のような伸びやかさ、雄渾さが感じられず、あまり好きにはなれませんでした。しかし研修に参加しメンバーの説明を聞き、東照宮の造営には戦乱のない、平和が続く世を築く事への想いが込められていることを知り少し見方が変わりました。

回廊の眠り猫の裏には雀の遊ぶ姿があり強い者も弱い者も平和に共存できる、表門の木鼻等に多く見られる伝説上の獣である獺は鉄や銅を食べてしまうので武器を作ることが出来ず戦乱が起これば平和に、また神厩舎の三猿は権力に対する盲従の象徴ではなく、皆が協力しあって送る平和な人生を表した8枚のパネルの一部であり、「悪事に耳を貸さず、染まらず、人を悪し様に言わず」を意味するとか——諸説あるようですが、江戸時代は最末期までは戦乱もなく、文化の担い手が権力者から大衆に移った時代でもあり、家康公の想いが叶えられた? SDGsの精神にも通じるところがあると言ったら飛躍しすぎでしょうか。

日光駅から下今市駅までの杉並木を歩き、街道沿いに並ぶ杉の巨木に圧倒されました。開発などの影響で並木が途切れ途切れになってしまったこと、木の痛みが目立つことは残念ですが杉のオーナー制度といったユニークな保護活動もあり、参考になりました。 [岩澤]

日光・歴史をささえる?の存在と日帰り旅

はじめに、歴史というものにはそんなに魅力を感じたことはありません。年号と歴史上の人物を対比して覚えることもさりながら、何よりも〇〇の戦い、〇〇の乱で誰かが勝った、負けたで天下を取ったという、血生臭いのが嫌いな訳で、決して社会科の先生の教え方が悪いのではありません。

そんな私が歴史に対し少しでも魅力を感じるのは、その時代によって造られた建造物の数々です。日本だけでなく世界の建造物は、その時代から今日、現在に至るまでさまざまなことがあったにも関わらず存在するのは歴史の重みを感じます。奈良、平安、鎌倉時代のものとする約1300年、今回の日光の建造物のガイド説明を聞いていると江戸時代のもが多く、それでさえも約400年は続いています。昭和の中で「戦争」というものがありながらも残っているのは不思議です。(壊して欲しいとは言っていないので誤解をしないでほしいです。)

話を変えます。私は前職、建設業に携わっていました。主として水まわりや電気など生活に関わることを設計、施工管理をしており、今でもその当時、お客様だった人から相談を持ち掛けられたり、近況報告を交



陽明門



わしたりしています。さて今回の建造物では現代のような照明や水まわりの設備は付随していたのでしょうか？ 照明は蠟燭や松明を灯していたと思いますが、便所や台所、風呂と言ったものはその当時から作られていたのでしょうか？ そこに何日、何時間いたにしる、それらのどれかを使用し、利用をしたいと思います。何かの目的で来たとしても必要だと思いました。案内図になかったことと、これだけの煌びやかさを見せるには、その裏には…、という前職

のこだわりです。

今回の研修は、数日後に引率で行った修学旅行の下調べもあり、いろいろな場面で見逃しそうなところを見たり聞いたり、案内をしていただいたりして助かりました。

私自身は日帰りで少し物足りなかったですけど、内容は研修旅行としては充実をしていました。ちなみに修学旅行は1泊2日の日程でしたが、夜の予定があり日帰りです。 [山口]

日光旧街道ウォーキング



ニッコウキスゲの群生



日光杉並木を歩く

今回の研修旅行で一番楽しみにしていたのは日光杉並木の街道歩きです。数年前から続けている旧東海道の街道歩きも島田を過ぎたあたりで中断したまま1年が経ちます。今回の街道歩きは絶好の足慣らしになるとともに、まだどのくらい歩けるか確認するにも最適です。

研修旅行の2日目午前中は霧降高原キスゲ平の散策。路線バスを降り、整備された遊歩道と階段を500m、高低差100mほどの行程を1時間くらい歩き、ニッコウキスゲの群生や、寡聞にして名前を知らない白や紫の花を愛でながら過ごしました。

午後は楽しみにしていた日光旧街道ウォーキング。日光駅から下今市駅近くの「道の駅日光街道ニコニコ本陣」まで、左右の杉の巨木を見ながら、所々に昔の石畳の残る旧街道、約8kmを2時間ほど歩きました。決して遅いペースではありませんが無理せず歩きました。それもそのはず、日光街道は江戸から日光へは上り坂ですが、今回歩いたのはその逆コースで、なだらかな下りが続いていたからです。

この日だけで万歩計は2万歩を超えましたが、それ程の疲労感や足の痛みもなく、「まだまだ歩けるぞ」と自己暗示をかけるにはうってつけの結果でした。

聞くところではニッコウキスゲは2、3日前に開花したばかりとか。この時期に旅行を企画した幹事さんに敬服。その上、梅雨のこの時期にしては大した雨にも遭わなかったのは幹事さんの日頃の行いの賜物と感謝。つい「来年もまた幹事を…」と内心期待しています。 [桑原]

これからの活動予定

- ◇ 7月8日(月)、8月30日(金) かながわ環境教室⑤、横浜市青葉区内の小学校
- ◇ 7月20日(土) 放課後こども教室、橋本こどもセンター
- ◇ 7月24日(水) 夏休み環境学校、相模原市立橋本公民館
- ◇ 8月10日(土) 夏休み子ども環境体験教室、大磯町美化センター
- ◇ 8月20日(火) 夏休みいそごエコスクール、横浜市磯子区役所
- ◇ 9月17日(火) KISTEC なるほど! 体験出前教室①、葉山町内の小学校クラブ活動
- ◇ 9月18日(水) かながわ環境教室②、葉山町内の小学校

上記は計画が確定していないものを含みます。詳しくは事務局にお問合せください。 earth.eco.jimukyoku@gmail.com

7月の例会・勉強会

7月15日(月) 13:30-16:30

かながわ県民センター会議室

会員外の皆さんも、例会・勉強会やほとんどの活動を見学することができます。詳しくは事務局にお問合せください。

アース・エコ メールマガジンのバックナンバーは↓からご覧いただけます

<http://www.kiykuwahara.com/page03/page03.html>

地球温暖化やボランティア活動に関心のある方

私たちと一緒に活動しませんか？

アース・エコの活動に参加してみませんか。例会・勉強会の見学も歓迎します。事前にメールでお問い合わせください。 ⇒ info@npo-earth-eco.com

会員募集中！

アース・エコ

検索



私たちの活動は皆さまからのご寄附で支えられています

アース・エコへの寄附は「よこはま夢ファンド」にお申し込みください。インターネットまたは郵送・ファクス・Eメールでお申込みの際に、支援したい団体に「アース・エコ」をご指定ください。税の優遇措置が受けられます。 ⇒ <http://www.archive.city.yokohama.lg.jp/shimin/>

アース・エコは地球温暖化防止活動に取り組むボランティア団体です。

ホームページ <http://www.npo-earth-eco.com>

お問い合わせ、お申込み、メルマガ配信希望・配信中止のご連絡はこちらまで info@npo-earth-eco.com